

No.	地区 コード	課題 区分	生活課題	役割分担(策定分担)			
				行政	協働	地域	その他
1			ひとりで外に出れない。	○	○	○	
2			誰かいてくれたらできるが、頼めない。頼みづらい。		○	○	○
3			JR. 地鉄のホームが落ちそうで怖い。	○			
4			妻の都合が悪いと頼める人がいない。		○	○	○
5			福祉サービス(同行援護)の手続きが面倒。わかりにくい。	○	○		
6			サービスの利用は急の対応ができないため利用しづらい。	○	○		
7			冬、除雪の後、近所の川のふたが閉まっておらず、危ない。	○	○	○	
8			近所の協力があったらいいと思うことが多い。			○	
9			街灯がなく、溝や段差で何度も落ちた。一度肋骨を骨折した。	○		○	
10			夜の外出は不安でできない。	○	○	○	
11			地域の理解が薄い。	○	○	○	
12			地区に何人障害者がいるか知らない。	○			
13			同じ視覚障がい者通し話をしたくても個人情報保護で情報が入らない。	○			
14			行政から情報は伝えてあるらしいが申請がないとつながらない。	○			
15			点字ブロックのない公共施設がある。	○			
16			公共施設での誘導をお願いしたい。	○			
17			入口の自動ドアにチャイムなど音のなるものをつけてほしい。	○	○		
18			信号機に音を付けてほしい。	○			
19			美術館など、触ってもいい作品があったら、さわってみたい。	○			
20			役職のときだけでなく、ずっと障がい者のことを言い続けて欲しい。	○			
21			民生委員からもたずねてほしい。	○			
22			他の障がい者団体とも交流したい。前はあったがなくなった。	○			
23			災害時の援助の方法はどうするのか考えてほしい。	○	○	○	○
24			障がいの理解、地域の意識を高めてほしい。	○	○	○	
25			音の出る信号機はうるさいと言われ、つかなかった。	○	○	○	
26			県外やJRは親切になったが、市内での意識はあまり変わらない。	○	○	○	
27			JRの切符購入の文字盤が高さが高くて困る。	○			
28			医学の発達で視覚障がい者の数が減り、個人の声が届きづらい。	○			
29			団体の加入数も減り、思うように意見はとおらない。	○			

30		新幹線の駅も使いやすいか不安。どうつくられるのか知らない。	○			
31		段差や階段の少ない駅にしてほしい。	○			
32		自分の予定が空いても付いてきてくれる人がいないと出られない。	○	○		○
33		交通の便が良くなっても、駅までの道が一人では行けない。		○	○	
34		急に家族が入院した際、同行援護の利用手続きもできず、苦勞した。	○	○		○
35		夜外出したくても、暗いと何も見えず、出られない。(明るいと少し見える)	○	○		
36		雪が降ると、融雪装置がないと足場が悪く危険。送迎も大変。	○			○
37		飲食店に点字メニューがあればよい。(全メニューを知って、選びたい)		○		○
38		市民病院前や電鉄黒部駅周辺などの交差点だけでも音響式信号機を付けてほしい。	○			
39		駅にホームドアを付けてほしい。(ホームから転落し、頭蓋骨骨折をした)	○		○	
40		JR黒部駅にエレベーターを付けてほしい。	○			
41		地鉄のホームと電車の段差が怖い。(解消してほしい)	○		○	
42		黒部市、富山県は声をかけてくれる人が少ない。	○	○	○	
43		白杖の認知度が低く、平気でぶつかってくる人がいる。	○	○	○	
44		都会では席を譲られるが、富山県内ではほとんどそのようなことがない。	○	○	○	
45		大人ほど障害者や高齢者への意識が低い。	○	○	○	
46		小学生は福祉教育後、感動的な感想が多いが、中学生はあっさりしている。	○	○	○	
47		情報入手は人づてが多い。	○			
48		市のHPの情報量が少なく、どんなサービスが使えるのか分かりにくい。	○			
49		補装具について、何が借りられるのか分かりにくい。	○			
50		市の広報のテキスト版があればよい。(音声変換の機械で読み取りやすい。)	○			
51		視覚障害者向けのパソコン教室が、富山まで行かないとない。	○	○	○	
52		障害物検知器を普及したらよい。	○			